

平野達司 転入者への情報提供について
市外から子育て家族が転入したときに一番最初にもらう市民課の神戸のくらしのガイドを神戸に関する情報が乏しい市外の転入者の方々に対して、最も丁寧に情報発信をしていくという姿勢が重要ではないか。

今西副市長 市外からの転入者がどのような情報を求めているのか、また、市として積極的に情報提供すべきことは何か、それぞれの属性に応じた効果的な媒体は何かといったことが十分整理されていなかったのではないかと、できるだけ早く改善をしなければならないと思っている。

平野達司 小児科の一覧について 改善策の中の1つとして、各区役所のこども家庭支援課で小児科の一覧が配られていない。健康局が持っている小児科に対応している病院一覧で、診療項目として小児科と書いてあるものを是非、公表して、連携すべきではないか。

久元市長 非常に具体的な御指摘をいただいたので、しっかりと御指摘を踏まえて、できるだけ早く、先ほど私と小原副市長とお答えをした点につきましては、スピード感をもって取り組んでいきたい。



子育てサークル児童館にて



母子健康手帳(サンプル)

2.大型ごみの再利用(オークションでの売却、海外販売)について

平野達司 神戸市における大型ごみは、大幅な増加傾向にあり、一部焼却も実施されている。二酸化炭素の排出低減のためにも大型ごみの再利用を検討しなければならない時期に来ていると考えている。
市民が回収前に大型ごみを写真撮影の上、環境局に送付し、神戸市が簡易入札などを行うような仕組みは考えられないか。



海外向け再利用される物品



各種オークション売却前物品

今西副市長 大型ごみは、平成29年度には約32万個が、令和2年度には約50万個と3年で18万個増加し、約1.6倍という状況で、増加の一途をたどっている。具体例として、椅子、テーブル、衣装ケース、布団、マットレス、自転車、棚、たんすなどで、これだけで約半数を占めている。

本市と、民間事業者と連携して片づけ支援を行うサービスの仕組みを構築した。このサービスは、片づけごみのうち、リユースできるものについてはリユースに回し、再利用できないものは廃棄物として適切に処分するとともに、料金体系など安心して利用できるサービスを提供しようとするものである。これまで試行的に実施をしてきているたんす、テーブル、食器棚などの家具類や、鍋、皿などの買取り、引取りを行っていただいた後、有償での販売を行っている。まだ試行ということなので、令和3年度の上半期では33件の利用にとどまっている状況である。最新のICT技術を活用した民間のノウハウについても、導入可能なものについては積極的に取り入れていきたい。

平野達司 浜松市がLINEで画像を送信して、AIがごみの種別を判断する回収方法の実証実験をしている。神戸市内には全国的に大規模な不用品買取りのオークション会場が2つあり、南は鹿児島から、東は関東から多くの方々が参加。オークション会場は国内流通だけではなく、実は神戸に港があることから、海外での不用品販売が実現できている。大型ごみの写真を撮って、簡易入札ということができれば、二酸化炭素の削減、大型ごみの再利用、大型ごみの軽減にもつながれると思うが、ぜひ積極的に推進していただきたい。

最後に、海外では、食器がかなり価値があり、再利用可能と考えているので、市民に負担をかけずに、一部の地域でモデル的に食器は資源ごみとして回収できないか。

今西副市長 今年度、民間事業者と連携して、プラスチックなどの資源物を地域における拠点で回収するモデル事業の実施を予定している。その中で、食器についても、回収対象として集め、リユース市を開催することを検討している。そういったモデル事業を実施する中で、御指摘のあった回収した食器の海外における再利用の可能性とか、民間の不用品回収業者との連携した回収といったものも研究させていただきたい。